

連載

36 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

“10月の風”は在宅日和 「おもてなし」の 心に接し感動す!



3年前ころ、高度機能病院から、アルコール依存症で肝硬変症の患者さんT氏(66歳・男性)を紹介されました。

T氏宅は、松山市の南の山間部にあったので、道すがらに心地よい風を受け、きれいな空気を体いっぱい吸えて、日頃からの雑事から解放され、妙に元気になりました。

T氏は60代後半と、まだまだお若いのですが、著しく体力が低下しており廃用症候群で寝たきり傾向にありました。すでに重篤状態であったのですが、入院を希望されず自宅での療養を強く希望されていました。

T氏は90歳の母親との二人暮らし。山での生活は、小川のせせらぎや見渡す限りの山林・森に囲まれすばらしく、何よりも替え難い命の洗濯になっています。

T氏が若い時、薬品関係の仕事がされていて、ご活躍であったとお話しなど伺いながら診察をしていますと、お母様が冷たい飲み物を出してくださろうとしましたので、お気持ちだけをありがたく頂戴することにしました。

在宅訪問時に体感するいつもながらの温かいお気持ちに接し、我々職員一同にとって、ほのぼのとして充実した時間となったのでした。

国は人の「生命」を守るために

- ① 病気・治療の研究
- ② 病気が悪化したときの救急医療
- ③ 24時間365日の在宅医療

を上下の区別無く「三位一体」として、その業務を求めています。なぜなら「人の命」には、それら全てが必要だからです。

今回のような患者さんのお母様の「おもてなし」の心は、日本のすばらしい文化の香りがします。また個人的にも私の亡き母を思い起こさせ、感動したのです。

「お医者さんが来てくれる」 質の高い在宅医療・看護・介護 を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>